

3

帆足萬里の顕彰記念会について

寺畑 喜朔

金沢医科大学

帆足萬里は豊後国日出藩家老通文の第三子として安永7年1月15日出生、長じて脇愚山、中井竹山、亀井南冥、皆川淇園らの碩学を歴訪し、三浦梅園の影響をうけ、和漢の學術を広く修学した。文化1年藩に出仕、3~6年家老となり、藩財政を改善する。以後、西庵精舎で子弟教育に専念する。著書多数のうち、「訳鍵」を手掛かりに「窮理通」8巻を著す、これは洋学史の名著で国の重要文化財に指定（昭和16年）。萬里は晩年門人賀来佐一郎、日野鼎哉、坂本周行の三門弟に医学教育を進める中、「医学啓蒙」（嘉永3年）を上梓した。萬里の医学は漢蘭折衷派に属する。萬里は病のため西庵より日出の旧宅に帰り嘉永5年6月14日長逝した。文簡院広誉殿毅忠貞居士、松屋寺康徳山に葬る。

萬里顕彰の動機は西村天囚の「学界の偉人」大阪朝日新聞連載、明治43年）の執筆にある。この年、日出町は帆足記念文庫を創設する（現萬里図書館）。

最初の顕彰会は

1. 萬里贈位記念頒徳会 明治45年2月26日（従四位贈位記念）より3日間開催、大分県の朝野をあけて日出高等小学校において、西村天囚「萬里先生の卓見」宇野哲人「帆足萬里先生の學術と功業」など多彩な行事を催し、帆足記念文庫から「帆足萬里先生」略伝が頒布された。

2. 萬里先生没後70年祭 大正10年6月14日郡教育会主催で記念式（松屋寺）、倍楽館で「窮理通」（九州帝大苦桑木或雄教授）の記念講演、なお、帆足萬里記念文庫の図書を編集し、全集編纂が発起され、作業進行中大正12年9月の関東大震災で印刷所日進合が焼失、原稿など灰燼と化し、再度編纂し同15年「帆足萬里全集」完成刊行された。

3. 没後80年祭 昭和6年6月14日郡教育会が主催、当日墓前祭、翌日日出小学校で記念式、「高里先生の學問と事業」（大夢土屋元作）の記念講演会を開く。

4. 没後90年祭 昭和16年6月14日郡教育会、日出町教育会、記念図書館共催で開催、菩提寺龍善寺で法要、記念式挙行、学徳宣揚功勞者表彰、「帆足萬里先生の學問と思想」（三枝博音）の記念講演を開催。

5. 帆足萬里先生没後100年祭 昭和25年9月日出町が発起し協賛会を設立し、大分県、速水郡関係者の協賛をえて、記念会を翌26年10月16~18日の3日間、郡内各小、中、高校を会場に多彩な行事が盛大に開催された。第一日に日出小学校で記念式挙行、記念講演は東大名譽教授宇野哲人の予定であったが、列車不通のため中止された。しかし、多くの催事は広く郡内各会場で開催され、記念事業として、萬里図書館改修移転、墓碑の保全顕彰、略伝の頒布が実施された。

6. 100年祭以後 顕彰会開催継続推進の原動力が枯渇したためか、110年祭は開催されなかった。昭和46年11月3日、120年祭には記念講演「帆足萬里における科学の目と文学の心」が萬里の曾孫帆足図南次（早稲田大学教授）により行われた。130年祭の開催は検索したが発見されず。しかし、昭和57~61年の間、毎年6月14日帆足萬里に関する講演会が開催された（日出町社会教育課資料）。平成3年6月14日に140年祭が開催され忌辰祭が墓前で行われた。翌日記念講演（福永光司）、シンポジウムが開かれた（広報、ひじ）。直近150年祭は日出城築城400年記念会と合同し平成13年10月27、28日「ひじ産業文化まつり」が開催され「曝谷から西崎へ」（田中政宏）の記念講演のほか、門弟遺品展など近代的文化祭へと変革した。しかし、明治末より現代まで地域に定着した入物の顕彰会が定期的開催の行われた史実は日出町以外見当たらない。日出町では萬里図書館が開催の原動力となる文化資産を大切に保存管理してきた。この功績は高く評価しなければならない。